

次の手順に従って、課題に取り組んでください。答えはノートに書いておいてください。classiがつかったらアンケートに答え、画像を添付してください。

課題一 「境目」の辞書的な意味を確認しましょう。

- ① 物と物との接する所。限り
- ② 物事の分かれる所。分かれ目。際まわ際。

課題二 別添ファイル『境目』学習プリント1について「の問二の答えとして挙げられた「境目」の

具体例を、次の項目に分類しなさい。（1組・3組の人で、自分の答えが別添ファイルの答えにない人は、自分の答えも分類してください。）

- A 物と物との接する所
- B 物事の分かれる所
- C AでもありBでもある所
- D AともBとも言えない所

課題三 本文の段落構成と小見出しの解答例を以下に示します。自分の答えと比べてみましょう。

- 第一段落（P.8L1～L7） 「行政区の境目」
- 第二段落（P.8L8～P.10L3） 「国・民族・人種の境目」
- 第三段落（P.10L4～P.10L15） 「季節の境目」
- 第四段落（P.11L1～P.12L4） 「境目の機能と危険性」 \*機能Ⅱ（ ）
- 第五段落（P.12L5～終わり） 「差別の回避と区別の肯定」

課題四 皆さんの答えには、第二段落「人間どうしの境目」、第四段落「境目とは何か」、第五段落「筆者の考え」といったものがありました。これらの答えも正解です。ただし、これらと解答例の違いを考えてみることに意味があります。どんな違いがあるでしょう。また、どちらがよいでしょう。

#### ☆解説

たとえば第二段落A「人間どうしの境目」とB「国・民族・人種の境目」を比べて見ましょう。Aは大雑把おおざっぱな小見出し、Bは具体的な小見出しと言えます。もう少し言うと、第二段落の冒頭の一文で示されているように、この段落は「人間どうしの境目」について考える段落ですから、Aの小見出しは話題を提示していると言えます。それに対してBの小見出しは、第二段落を読み取った後、その内容を簡潔に示した小見出しだと言えます。

そこで、皆さんに提案ですが、文章を初めて読む段階では、どんな話題で書かれているかを大雑把につかむ小見出し（Aタイプ）を考え、読解した後にもう一度読み取った内容を具体的にかつ簡潔に示す小見出し（Bタイプ）を考える習慣をつけるとよいと思います。

課題五 問五の答えについて検討しましょう。

1 「ひどく不可思議なものに感じた」のは「市と市の境目を行き来した時のこと」であることを踏まえて、妥当な答えを選びましょう。

2 1の作業を踏まえて、改めて筆者が感じた不可思議さとは「境目」どういうところなのかを考えましょう。

課題六 問六の答えは二つのパターンに分類できると思います。一つは「境目の基準があいまいだ」というところ。（確かな根拠に基づいているわけではないということ）です。ではもう一つはどんなところでしょう。

課題七 課題五や六で考えたことが、筆者自身の問題意識だと考えられます。ここからは、本文の読解です。自分の考えはとりあえず横に置き、本文の内容をしっかりと読み取りましょう。

1 第二段落は「人間どうし境目」について述べた段落です。P.10,12「わたし一人のまわりに、ぐるりと境目が引かれていた」とありますが、それはどんな境目ですか。

2 P.10,12「わたしは、その中で、一人。奇妙な感じだった」とありますが、その時の筆者の気持ち「何を」「で表しましょう。いくつでもよいです。」